



地域を愛し、未来を創る

しもつま未来学



下妻市では、子どもたちが地域への理解と愛着を深推進しています。本特集では、下妻小学校児童が制作学生が多賀谷時代まつりを支援した「Junior Youth サレンジショップ」を特集し、地域と協働しながら課題

め、社会に参画する力を育む「しもつま未来学」をしたデジタルマップ「しもつま MAP」と、市立中ポーター事業」、起業家精神を醸成する「中学生チャ解決に取り組んだ子どもたちの姿をお伝えします。



しもつま未来学とは？

下妻市のキャリア教育推進事業「しもつま未来学」効果的に活用した体験学習や地域活動を通して、児童を実感し、社会的・職業的自立につながる力を育成の一員である自覚を高め、下妻市を「大切なふる ※しもつま未来学については、「広報しもつま 2025

は、学校・地域・行政が連携し、豊かな地域資源を童・生徒が「学ぶこと・働くこと・生きること」の尊てます。地域の人々や社会と関わることで、自らが地さと」として誇りに思い続けられる人材を育成します。年 11 月号」（2・3 ページ）でも特集しています。

しもつま未来学の 4 つの Project

Project 1 大好き下妻 Project

下妻の魅力を再発見する学び

Project1の「地域の産業を学ぶ教育」では、地域の特色や強みを活かした教育活動を展開しています。その一環として、下妻小学校の3・4年生（昨年度時点）が「大好き下妻 Project」に取り組みました。これまでの町探検や校外学習で得た知識や体験を基に、市外・県外の人々だけでなく、市内在住の人にも下妻の魅力を伝えることを目的としています。児童たちは施設や地域の人々との関わりを通して、郷土の魅力を再発見しました。

児童主体のデジタルマップ制作

児童たちは調査内容をもとに、オリジナル動画で市の魅力を伝える「しもつま MAP」を制作しました。マップには二次元コードを配置し、スマートフォンなどで読み込むと施設の紹介動画が流れる仕組みです。動画の企画や撮影、ナレーションの録音から編集に至るまで、すべて児童が主体となって行いました。ICT を安全に活用しながら役割分担を行い、協働して課題に取り組む力を養いました。



Project 1
地域の産業を学ぶ教育の実施

地域の産業を知り、ふるさとの価値を学ぶ

Project 2
しもつまで働く人インタビュー事業

多様な働き方に触れ、自分の未来を考える

Project 3
職場体験学習事業

体験を通して、仕事と地域への理解を深める

Project 4
地域づくりチャレンジ事業

地域に関わり、未来を創る力を育む

Project 4 地域づくりチャレンジ事業

多賀谷時代まつりにおいて、地域づくりに挑んだサポーター

Project4の「地域づくりチャレンジ事業」では、地域社会の一員として将来の発展に貢献できる人材育成を目指しています。その一環として、中学生を対象とした「多賀谷時代まつり Junior Youth サポーター事業」を実施し、4月26日に行われた多賀谷時代まつりにおいて、市立中学校の15人の生徒が参加しました。

共に育んだリーダーシップと責任感

生徒たちは周囲と協力しながら小学生を支えることで、実践的なリーダーシップや責任感を養いました。また、地域の人々と深く関わることで、自分も地域社会の一員であるという自覚を深めるとともに、これからの下妻の発展に向けて、地域住民と共に努力し、協力しようとする意識を育みました。



制作にあたっては学校運営協議会と連携し、施設担当者へのインタビューや撮影等のやり取りも児童自らが行いました。こうして完成した「しもつま MAP」は、現在、紙とデジタルの両方で配信されています。下妻市役所や下妻駅、道の駅しもつまや道の駅常総、大宝八幡宮など、市内外の各施設に設置され、広く活用が始まっています。

イベントにおいてチャレンジショップに挑戦

千代川中学校の生徒が花とふれあいまつり、東部中学校の生徒が小貝川フラワーフェスティバルにおいて、チャレンジショップを実施しました。生徒たちは、下妻市の地域資源を活用した商品づくりを通じて郷土愛を育むとともに、商品や取り組みの企画から当日の販売、実施にいたるビジネスプロセスを実践的に学びました。

